

質問1：

キネトスコープがVRゴーグルに進化した形で繋がっているという話で疑問に思ったのですが、最近TikTokやYouTubeなどの手軽で短い動画が映画よりも普及しています。映画はクオリティが高く、物語構成も起承転結のある完全体のものですが、現代の人々に好まれる動画というのは、映画の元である「列車の到着」や「キス」と質や長さにおいて似ているように感じました。現代の人々はYouTubeやTikTokを進んだ技術と評価していますが、この講義を受け、私は現代の人々が映像に求めているものが退化しているのではないかと疑問に思いました。

質問への回答：

鋭いコメントをありがとうございます。TikTokに代表されるように、短い映像がループ再生される形態が現代において流行していることは、初期映画との連続性を感じさせる興味深い現象ですね。それを「退化」と感じるとき、私たちは「メディア技術が物語る能力を身につけること＝進化」であるという前提に立っていることに気付かされます。これが私たちが無意識に受け入れている「常識」です。19世紀の終わりに、映画が小説や演劇などの既存の芸術形態のように「物語る」ことを始めたのは様々な要因が複合的に作用した偶然の結果に過ぎません。こうしたことを考えると、「『物語る』ことはメディア技術にとって進化の証なのだろうか?」、「そうだとしたら、なぜ物語る事が進化なのだろうか?」、「なぜ物語る機能を持たないメディアのことを未熟だと感じるのだろうか?」、「あらゆるメディア技術はその発展に伴い、物語ることを宿命づけられているのだろうか?」、「なぜ技術が高度に発達した現代において、まるで先祖返りしたかのような映像が私たちのメディア環境に現れるのだろうか?」といった問いが湧き上がってきます。GC学部の講義では、こうした答えのない問いについて受講者たちとああでもない、こうでもないディスカッションをしながら考察を進めています。あなたはどう思いますか?

質問2：

2点質問があります。1点目は、東海岸における映画産業の行方についてです。アメリカ西海岸で映画産業が発達していったことを学びましたが、エジソン率いる東海岸では、その後映画産業は引き続き発展していったのでしょうか?映画産業において、東海岸が衰退し、西海岸と東海岸の立場が逆転するといったことはあるのかと疑問に思いました。

2点目は、河原先生が講義の最後におっしゃっていた「ハリウッドの誕生の経緯を歴史的なperspectiveから見ると現状の映画産業に関する問題が立体的に見えてくる」という言葉についてです。現代の映画産業に関する問題とは、ハリウッド映画がグローバル化によって世界に流通するようになったが、それはメリットだけではないという考え方で合っていますか?また、現代の映画産業を、どのように歴史と関連付けて考えるのかをお聞きしたいです。

とても興味深い内容で、映画産業についての興味が湧き、更に学習したいと感じました。もしよろしければ、質問にお答えいただくと幸いです。よろしくお願い致します。

質問への回答：

とても良い質問をありがとうございます。まず、一点目の質問についてですが、エジソンを中心とする東海岸の映画産業は、その後衰退していくこととなります。エジソンと彼の会社であるエジソン社を中心とする「モーション・ピクチャー・パテント・カンパニー (通称ザ・トラスト)」は独占的に映画産業をコントロールしようとしたのですが、その排他的な商慣行が反トラスト法 (日本でいうところの独占禁止法のような法律です) 違反であるとしてアメリカ連邦政府に訴えられ、敗訴することとなります。これによりザ・トラストは解体され、西海岸の映画産業の優位が確たるものとなりました。二点目の質問に関して私が講義でお伝えしたかったのは、ご指摘のように、ハリウッドのグローバルな覇権はメリットだけを伴うものではないということです。例えば、安価な労働力を求めて西海岸へと移動していった映画産業は、現代においては、その制作拠点をグローバルに拡大しています。CG制作などの映画制作プロセスの一部が、コストカットのためにアメリカ国外に外注され、アメリカ本国の映画産業が空洞化するという現象も発生しています。GC学部の講義では、こうした現象を踏まえ、映画製作のグローバル化を多角的な面から検討し、その問題についてのディスカッションを行なっています。